

特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) の利用に関する  
アンケート結果 (平成 27 年度実施)

平成 28 年 7 月  
独立行政法人 工業所有権情報・研修館  
知財情報部

1. はじめに

平素より特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) をご利用いただき、誠にありがとうございます。平成 27 年度に実施した二つのアンケートにつきまして、結果をご報告いたします。

アンケート結果の要旨につきましては「4. まとめ」をご参照ください。

特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) に関する利用者アンケート

実施箇所：工業所有権情報・研修館 HP

実施期間：平成 27 年 10 月 19 日～12 月 8 日

このアンケートは、特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) の開始年度にあたり、現行機能の使い勝手や新たな機能追加に関する要望に焦点を当てて、工業所有権情報・研修館ホームページにて期間を限定して実施し、記名式にてご回答いただいたものです。300 名の方にご回答いただきました。

特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) アンケート

実施箇所：特許情報プラットフォーム (J-PlatPat)

実施期間：平成 27 年 3 月 23 日 (※) ～平成 28 年 3 月 31 日 (通年)

※特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) のサービス開始日

このアンケートは、特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) の「アンケート」フォームにより、ご利用の実態を把握すべく通年にわたり実施しているもので、無記名式にて 1,058 名の方にご回答いただきました。(複数回回答いただいている可能性もございますのでご留意ください)

## 2. 特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) に関する利用者アンケートの結果

### i) 総論

ご回答いただいた方の属性は、「知財関係（調査、事務・管理）」及び「企画・開発・研究」を担当されている「会社員」の方が中心で、「大企業」と「中小企業」は同程度、業種又は専門分野においては「機械・精密機械」が一番多く、次いで、「化学・繊維」、「電気」、「情報通信」といった分野が多く、ご回答いただいた方の約半数が J-PlatPat を「ほぼ毎日」利用されている、といった結果となった。

J-PlatPat を利用する目的は、「出願又は審査請求等を行うにあたっての国内外の先行技術調査」が最も多いが、「審査経過、書類等の確認」も次いで多かった。これに連動し、J-PlatPat を利用することで得られたメリットとして、「経過情報や書類の確認により手続の効率化」が最も多く、「先行技術調査による出願や審査請求の厳選化」が続いた。

サービスごとの利用については、概して、「特許・実用新案の検索サービス」の利用が多い。

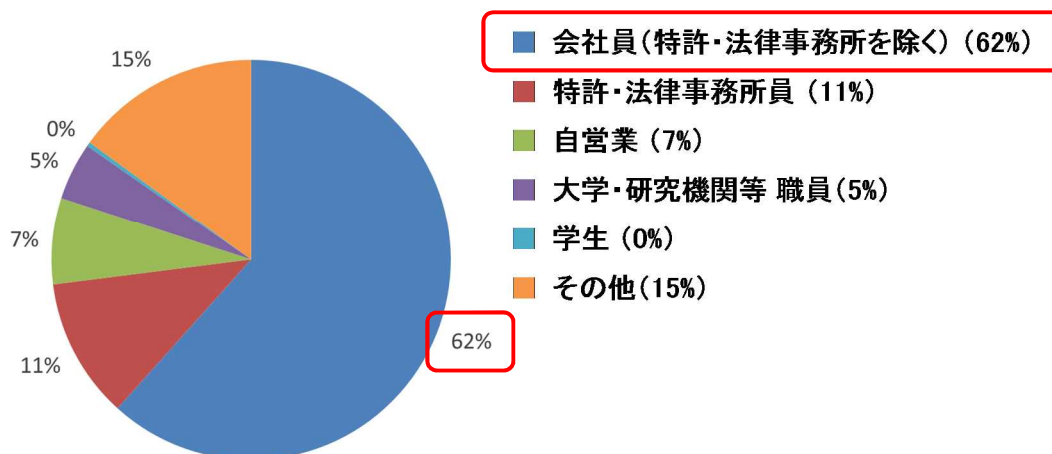
使い勝手について、特許電子図書館 (IPDL) と J-PlatPat に対し 5 段階評価をしていただいたところ、IPDL より J-PlatPat を評価する回答が多かった。

追加してほしい機能として、「審査書類情報の印刷機能」や「パテントファミリー外国案件の参照機能」について多くの要望があることが見て取れた。

ii) 各項目の結果

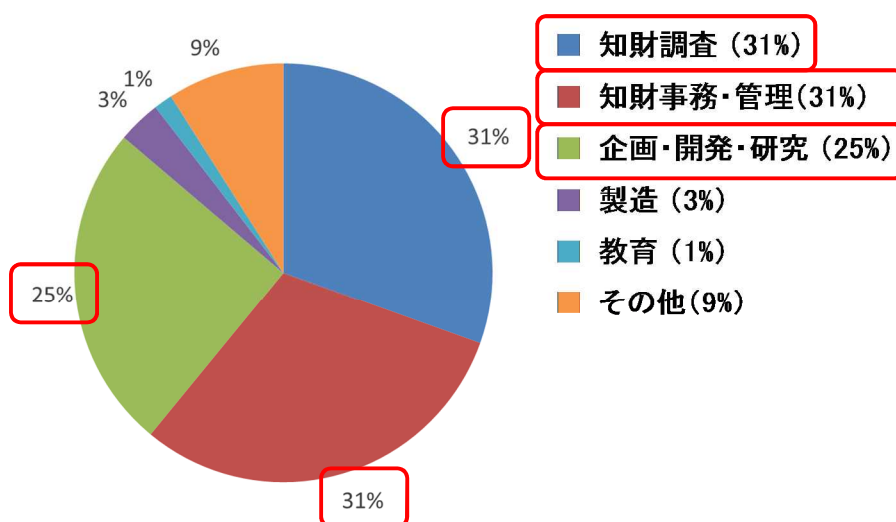
① 職業 (n = 300)

「会社員 (特許・法律事務所を除く)」の割合が半数以上を占めている。



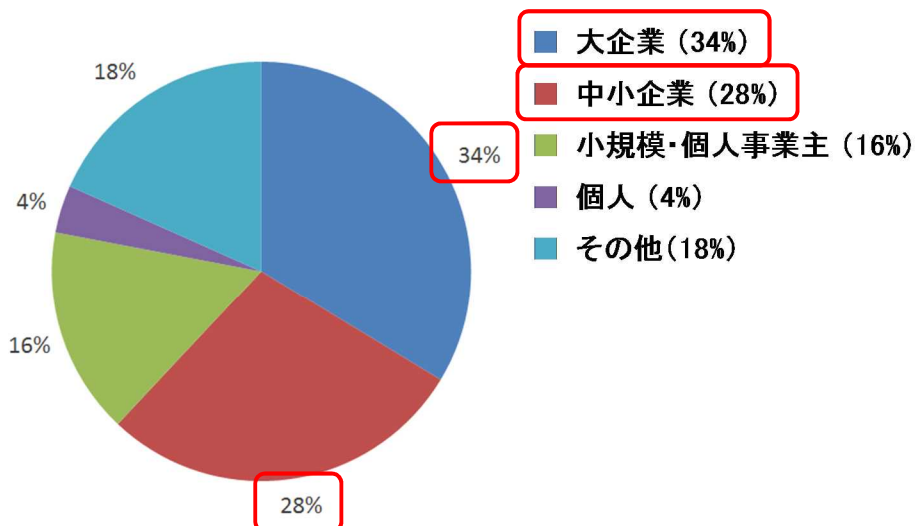
② 職種又は業務内容 (①で会社員、自営業を選択した方のみ) (n = 210)

「知財関係 (調査、事務・管理)」の担当者の割合が最も大きく、次いで、「企画・開発・研究」の担当者も同様の割合を占めている。



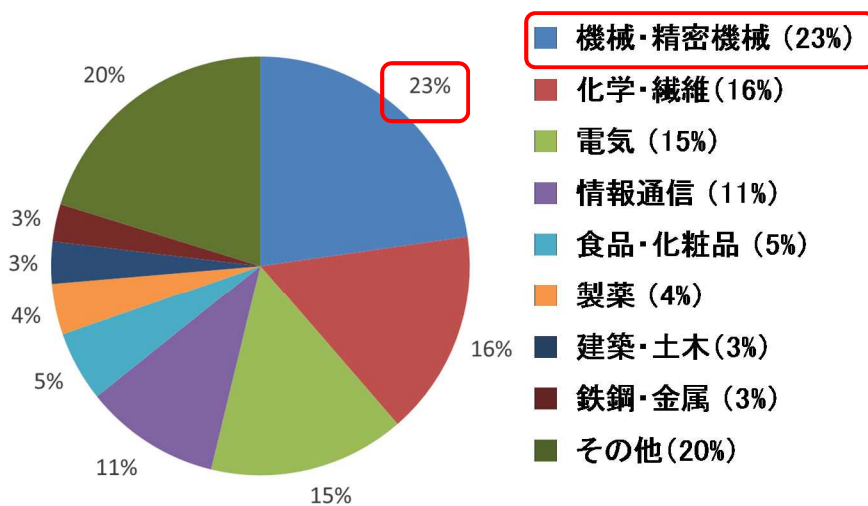
③ 勤め先 (n = 300)

「大企業」の割合が最も大きい、「中小企業」も同程度の割合を占めている。



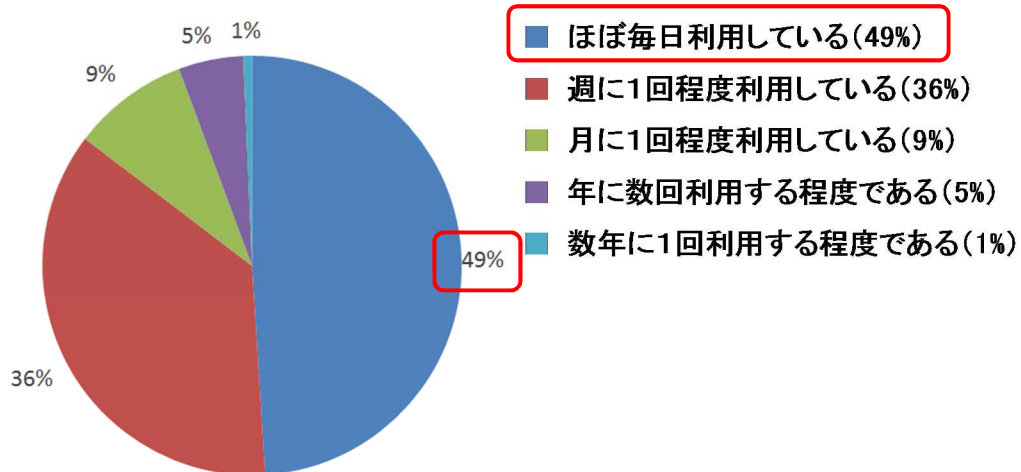
④ 業種又は専門分野 (主に特許検索サービスをご利用の方のみ) (n = 277)

「機械・精密機械」の割合が最も大きい。



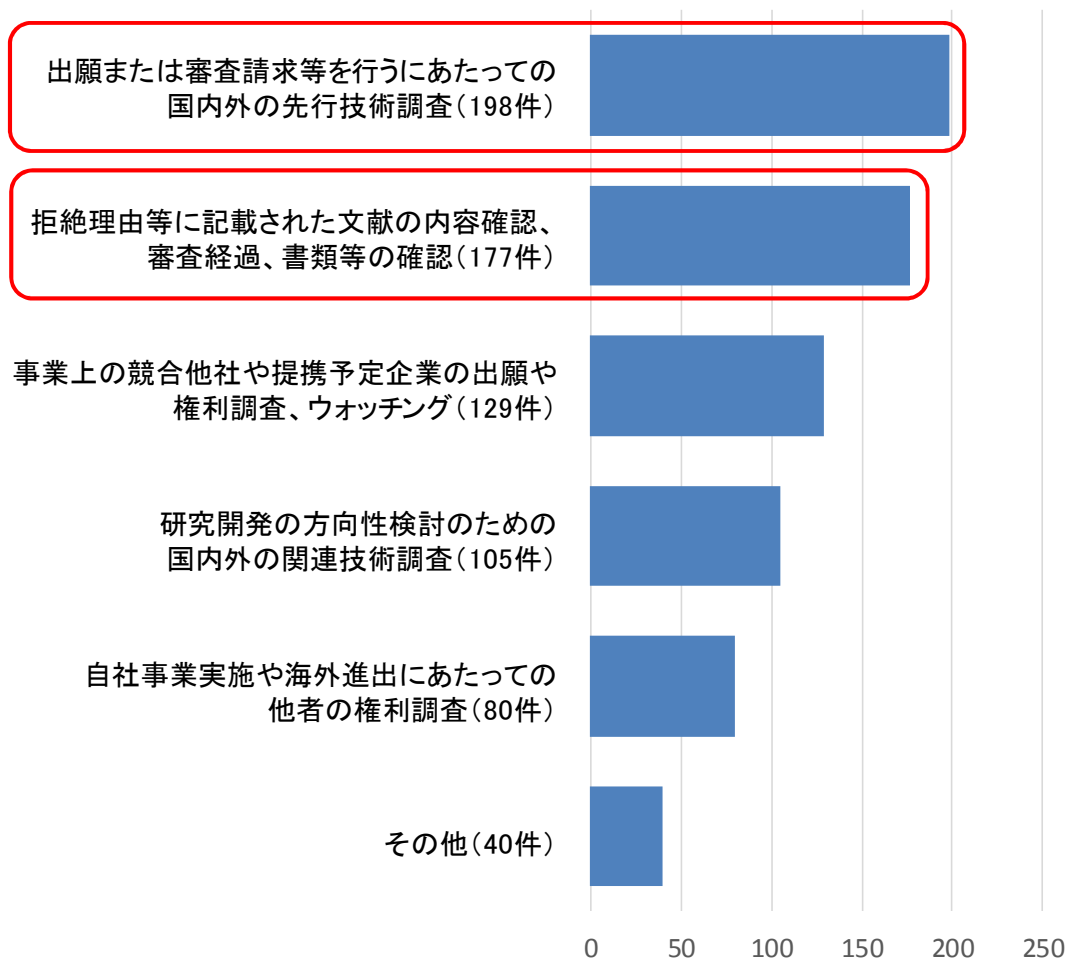
⑤ J-PlatPat の利用頻度 (n = 300)

「ほぼ毎日利用している」の割合が約半数を占めている。



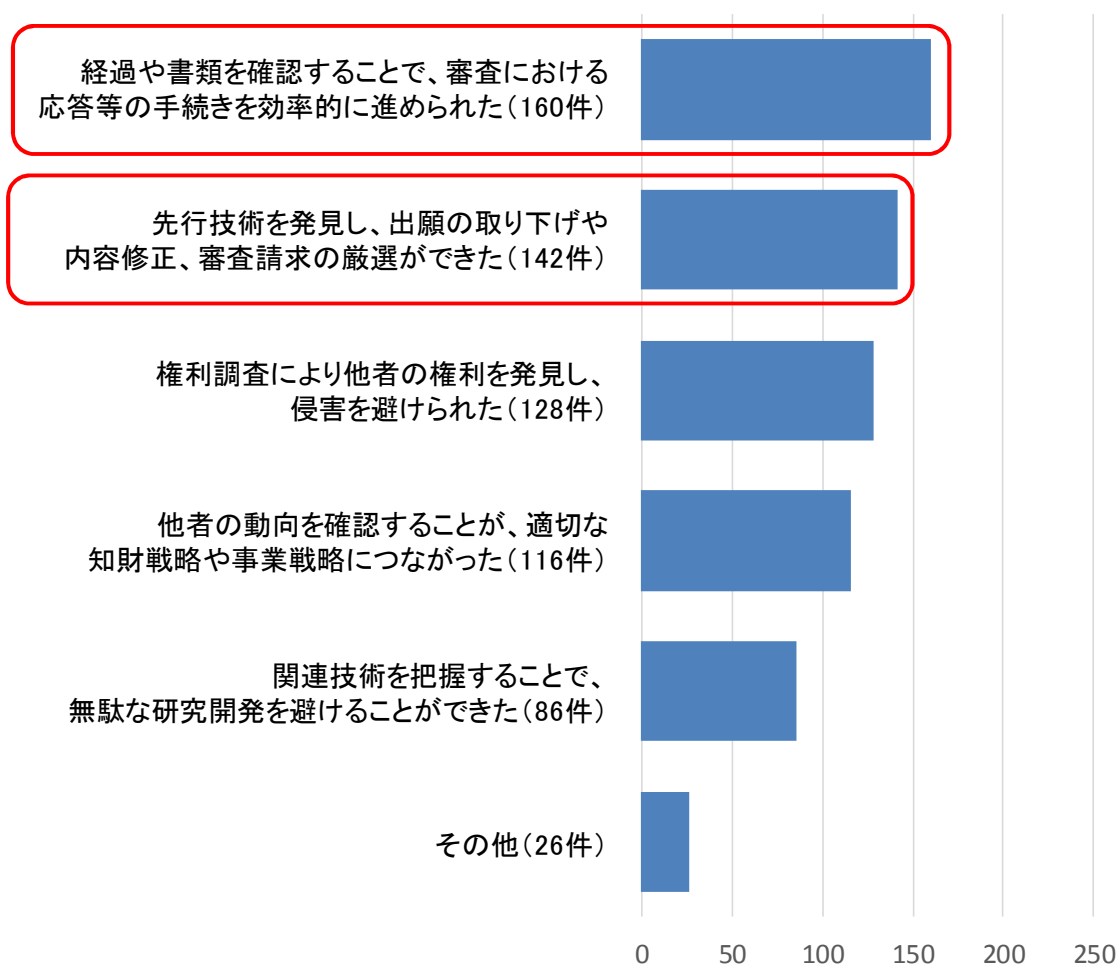
⑥ J-PlatPat の利用目的（複数回答可）

「先行技術調査」を利用目的とする回答が最も多く、次いで、「審査経過、書類等の確認」が多い。



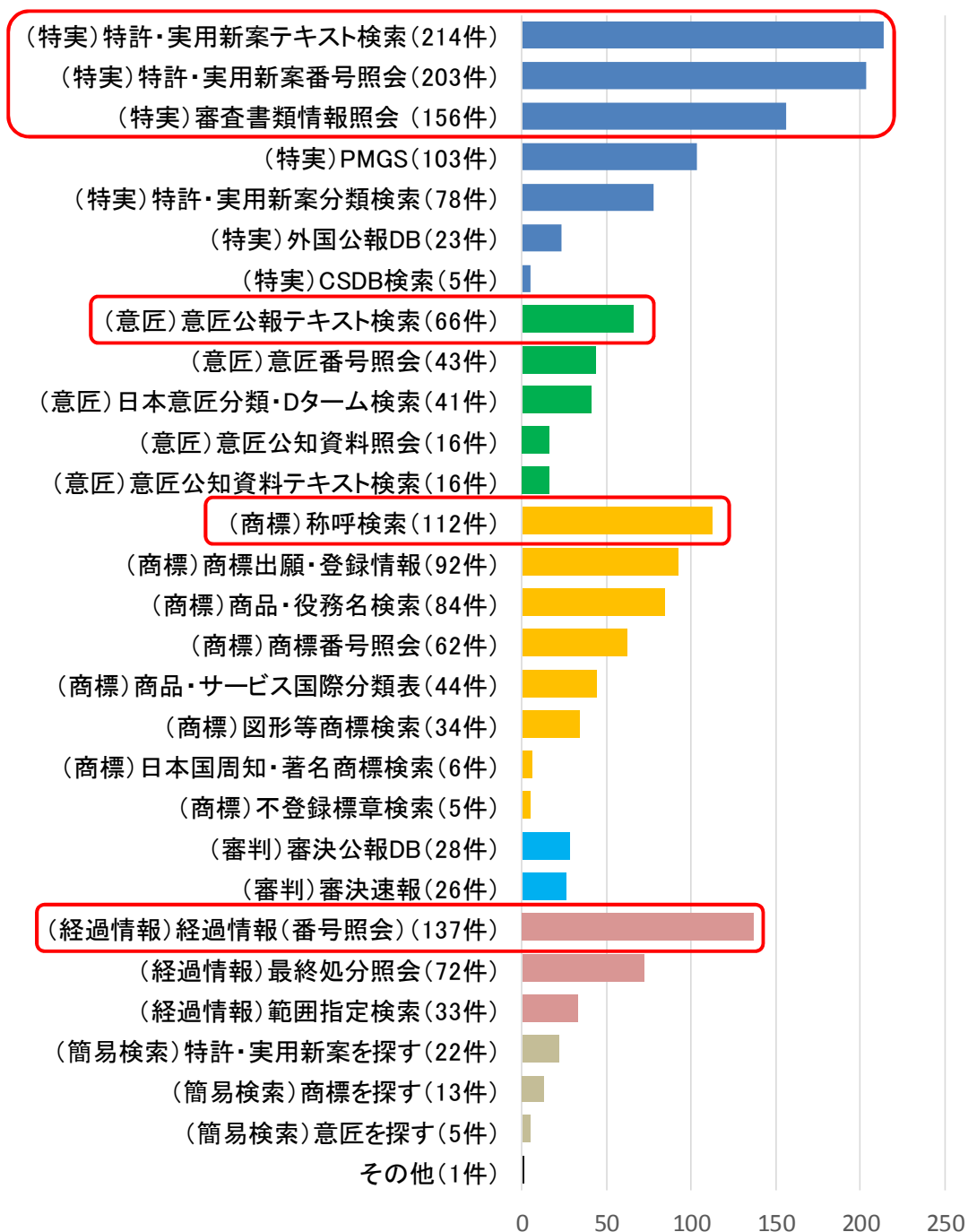
⑦ J-PlatPat を利用することで得られたメリット（複数回答可）

「経過情報及び書類の確認により、審査における手続を効率的に進めることができた」との回答が最も多く、次いで「先行技術を調べるにより出願及び審査請求を厳選することができた」との回答が多い。⑥（利用目的）と関連した設問ではあるが、結果は大きくは変わらないものの、項目ごとに多少の違いが見られる。



⑧ J-PlatPat でよく利用するサービス（複数回答可）

全体を通してみると、特許・実用新案の検索サービス（特に、「特許・実用新案テキスト検索」、「特許・実用新案番号照会」、「審査書類情報照会」の順が多い。）をよく利用するサービスとする回答が多く、次いで、「経過情報（番号照会）」が多い。商標については「称呼検索」が、意匠については「意匠公報テキスト検索」の回答が多い。

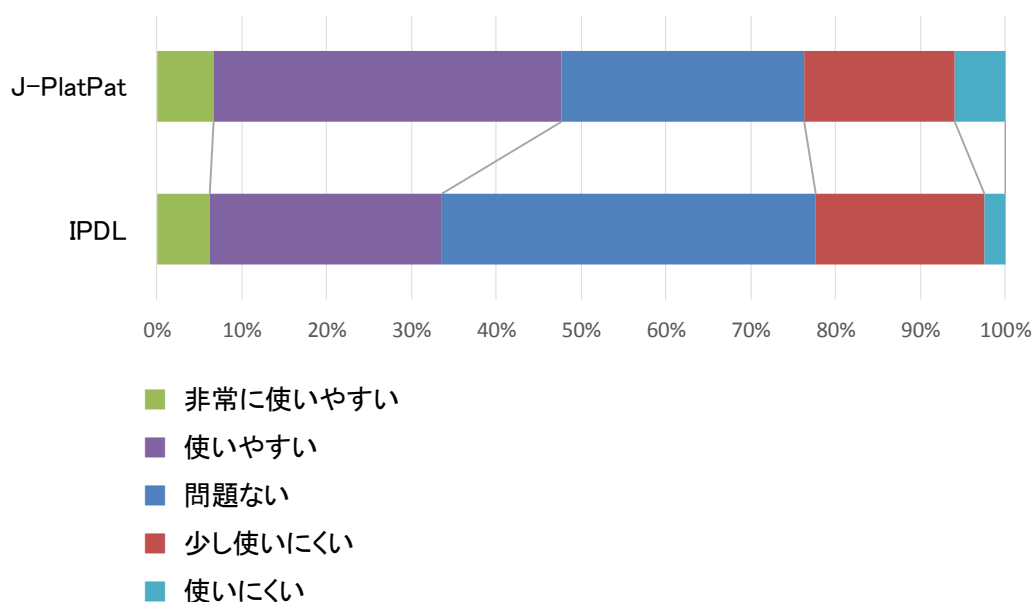




⑨から⑬の設問では、特許電子図書館（IPDL）と特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）それぞれの使い勝手について、5段階に評価いただいた。

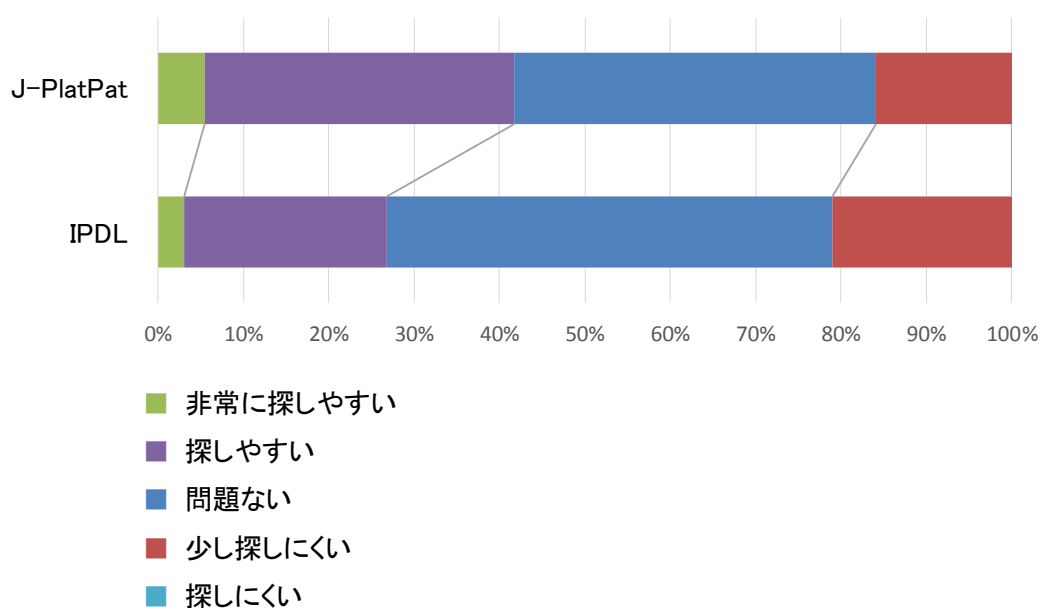
### ⑨ 画面の使いやすさ

J-PlatPat は、「使いやすい」の割合が最も大きい。



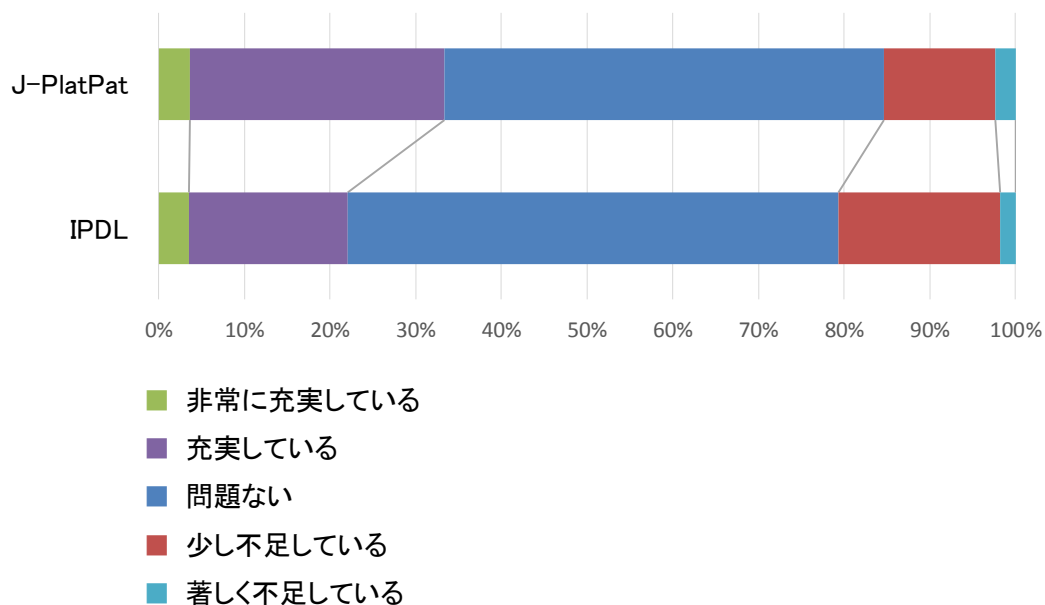
### ⑩ 情報の探しやすさ

J-PlatPat、IPDL ともに、「問題ない」の割合が最も大きいですが、J-PlatPat は、「非常に探しやすい」、「探しやすい」、の割合が IPDL に比べると大きい。



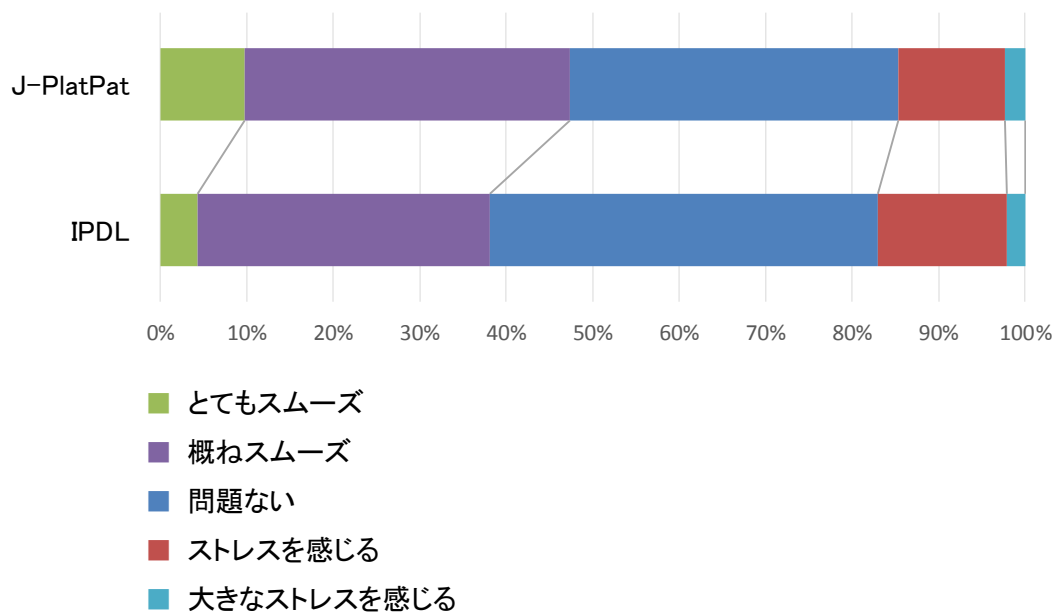
⑪ 情報の充実度

IPDL、J-PlatPat ともに、「問題ない」の割合が最も大きいですが、J-PlatPat は、「充実している」の割合が IPDL に比べると大きい。



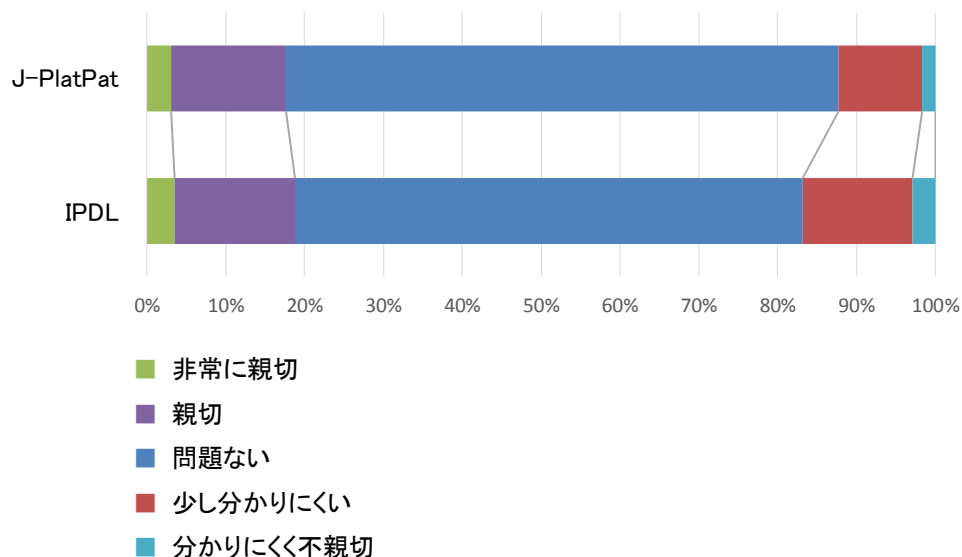
⑫ 検索や表示のスピード

J-PlatPat は、「問題ない」とともに、「概ねスムーズ」の割合も大きく、「とてもスムーズ」は IPDL に比べて J-PlatPat の方が大きい。



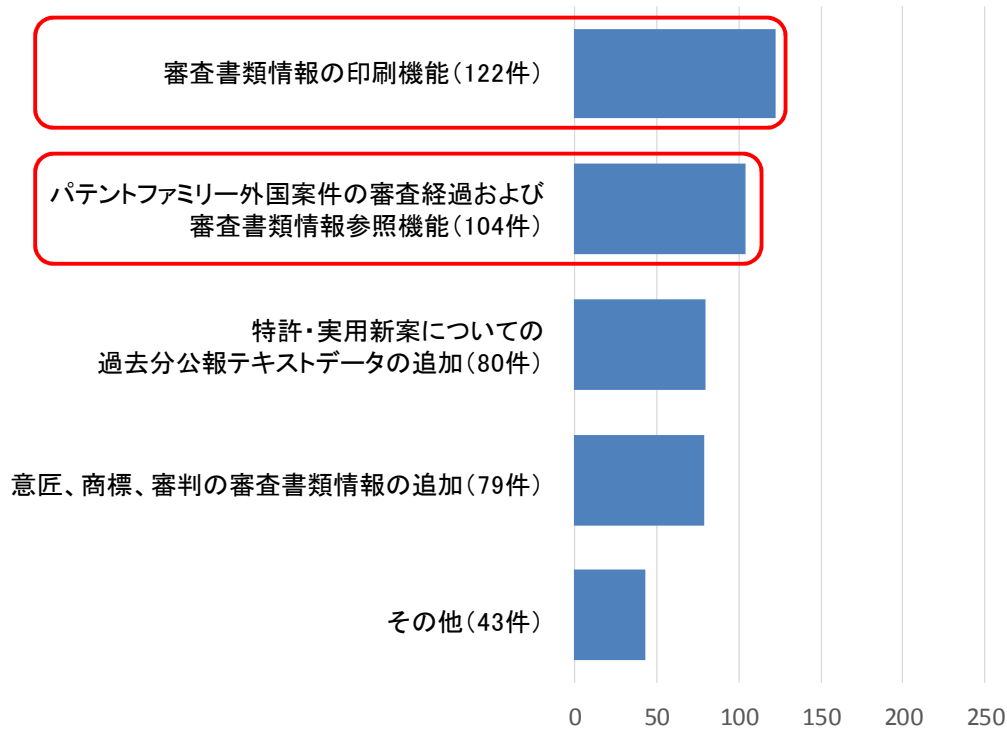
⑬ ヘルプの充実度やヘルプデスクの対応

IPDL、J-PlatPat ともに、「問題ない」の割合が最も大きい。



⑭ 追加してほしい機能や情報（複数回答可）

「審査書類情報の印刷機能」の追加を望む回答が最も多く、次いで、「パテントファミリー外国案件の審査経過および審査書類情報参照機能」の回答が多い。



(2. のアンケート結果は以上)

### 3. 特許情報プラットフォーム (J-PlatPat) アンケートの結果

#### i) 総論

ご回答いただいた方の属性としては、年齢は「40 歳代」「50 歳代」が、所在地は「東京」が、職業は「会社員」がそれぞれ多かった。

利用目的は、「権利調査」が最も多く、「技術情報の収集」、「先行技術調査」も同様の割合で高かった。

利用頻度は、「週に数回」が多く、1 回あたりの利用時間は、「30 分から 1 時間」を筆頭に、「10～30 分」、「1～3 時間」も多かった。

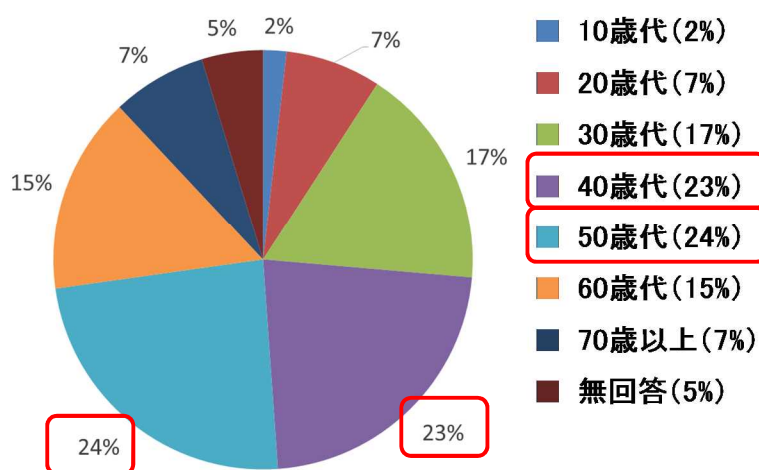
出願経験は「特許」が最も多く、年間の出願件数は「101 件以上」が最も多かった。

サービスの向上のために「表示機能の改善」を望む声が多かった。

#### iii) 各項目の結果

##### ① 年齢 (n = 1,058)

「50 歳代」の割合が最も大きく、次いで、「40 歳代」も同程度の割合を占めている。



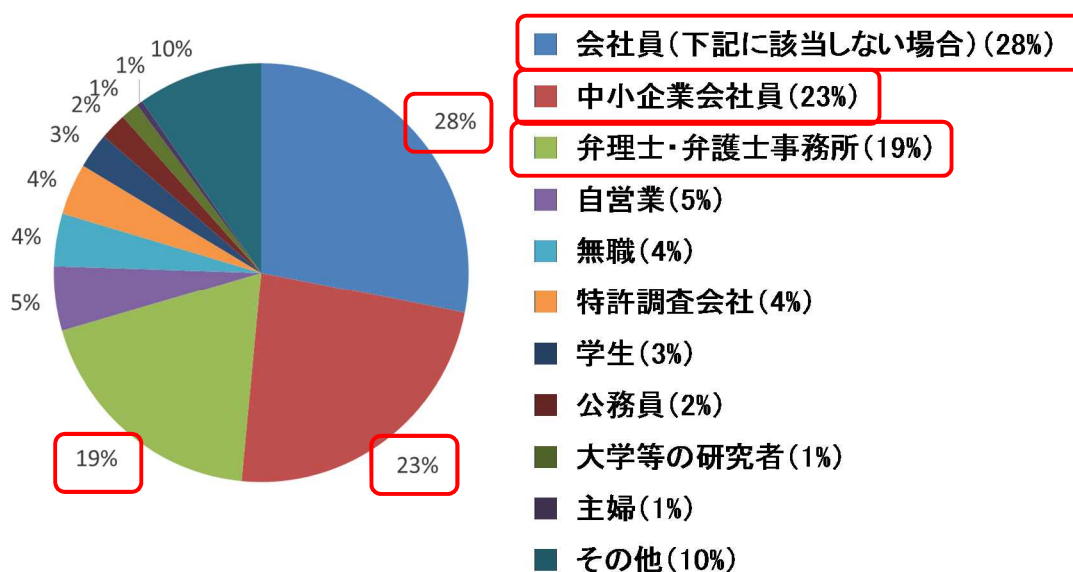
② 自宅又は会社の所在地 (n = 1,058)

「東京都」の割合が最も大きい。

東京都	30.2%	群馬県	1.1%	愛媛県	0.4%
大阪府	10.3%	宮城県	1%	宮崎県	0.4%
神奈川県	7.4%	栃木県	0.9%	青森県	0.3%
愛知県	4.4%	富山県	0.9%	岩手県	0.3%
埼玉県	4.2%	奈良県	0.9%	島根県	0.3%
兵庫県	2.7%	山形県	0.7%	佐賀県	0.3%
千葉県	2.2%	三重県	0.7%	福井県	0.2%
京都府	1.9%	香川県	0.7%	山梨県	0.2%
北海道	1.7%	石川県	0.6%	徳島県	0.2%
茨城県	1.7%	滋賀県	0.6%	秋田県	0.1%
静岡県	1.6%	岡山県	0.6%	鳥取県	0.1%
福岡県	1.6%	沖縄県	0.6%	高知県	0.1%
岐阜県	1.4%	山口県	0.5%	鹿児島県	0.1%
広島県	1.4%	熊本県	0.5%	外国	2.8%
福島県	1.3%	新潟県	0.4%	無回答	5.7%
長野県	1.3%	和歌山県	0.4%	その他	2.4%

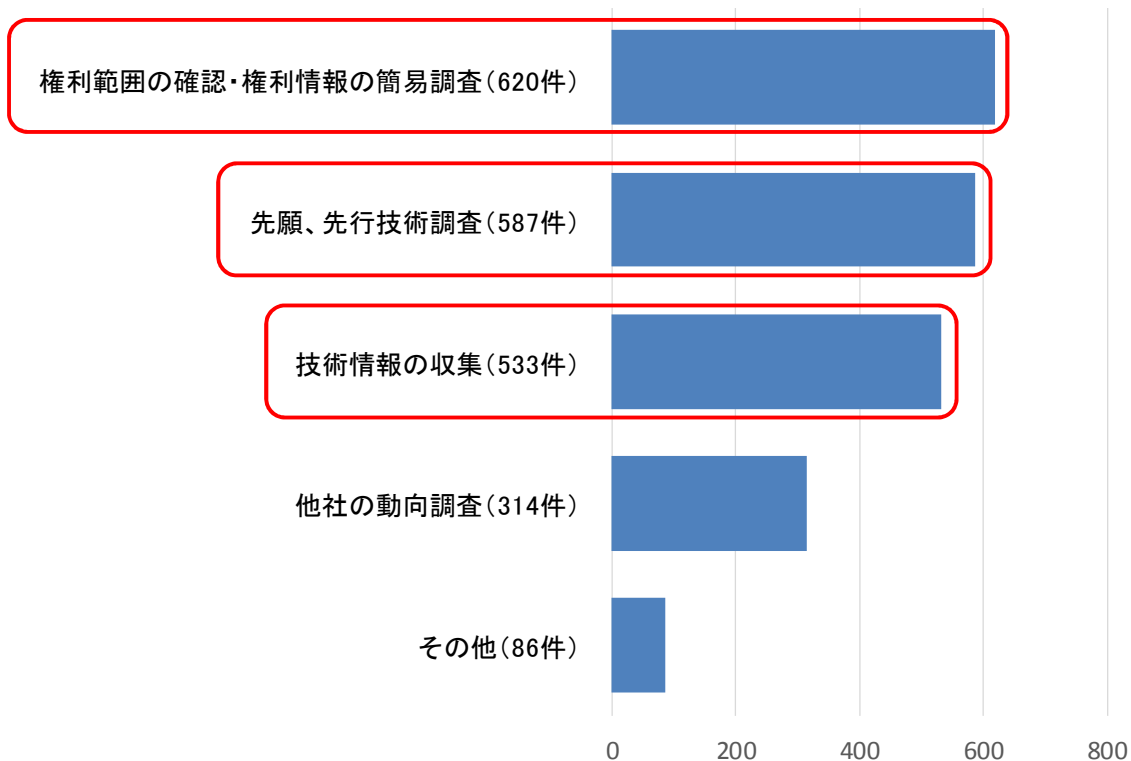
③ 職業 (n = 1,058)

「会社員」の割合が最も大きく、次いで、「中小企業会社員」、「弁理士・弁護士事務所」の割合が大きい。



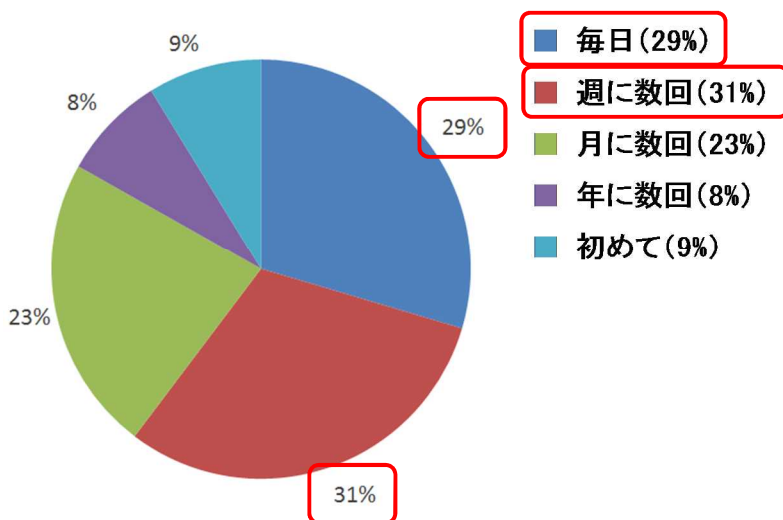
④ 利用目的（複数回答可）

「権利範囲の確認・権利情報の簡易調査」を利用目的とする回答が最も多く、次いで、「先願、先行技術調査」、「技術情報の収集」の回答が多い。



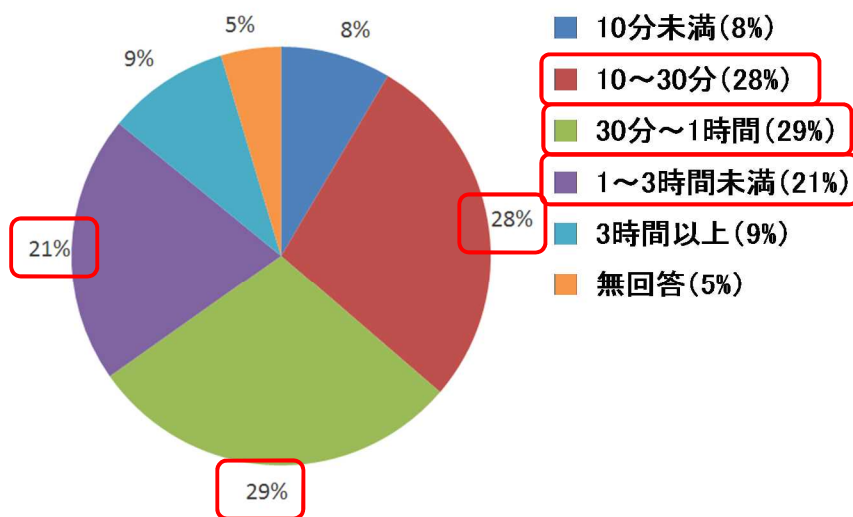
⑤ 利用頻度（n = 1,058）

「週に数回」の割合が最も大きく、次いで、「毎日」の割合が大きい。



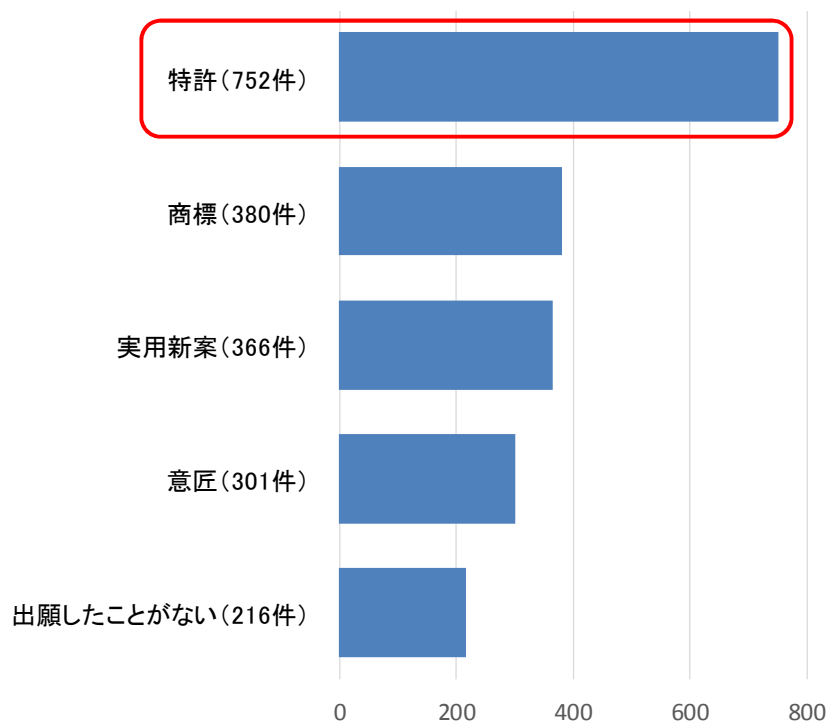
⑥ 1回あたりの利用時間 (n = 1,058)

「30分～1時間」の割合が最も大きく、次いで、「10～30分」と「1～3時間」の割合が大きい。



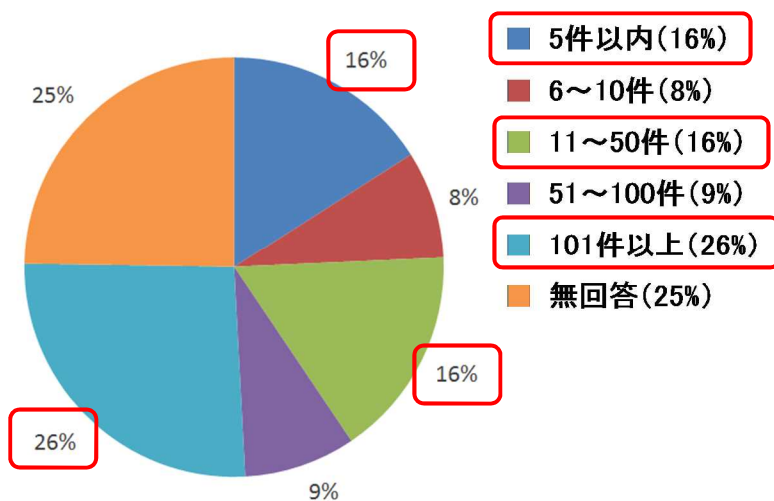
⑦ 出願手続の経験 (複数回答可)

「特許」の回答が最も多い。



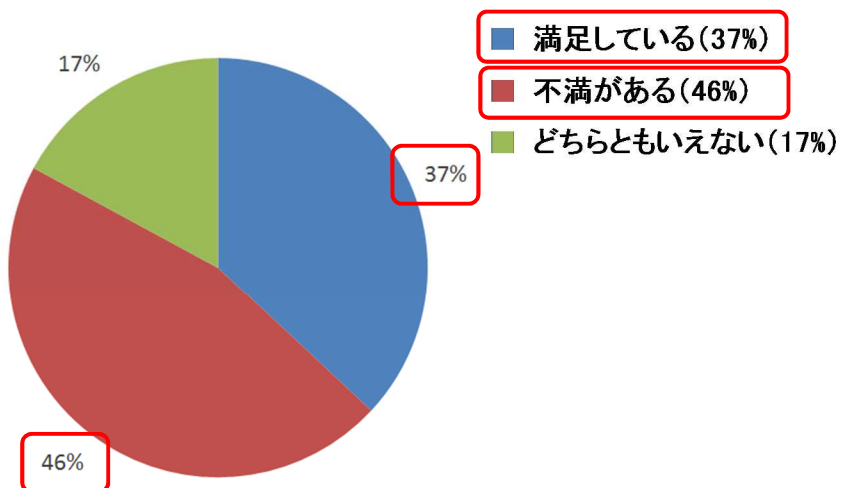
⑧ 年間の出願件数 (n = 1,058)

年間「101 件以上」出願されている割合が最も大きく、次いで、「11～50 件」、「5 件以内」の割合が大きい。



⑨ 使い勝手 (n = 1,058)

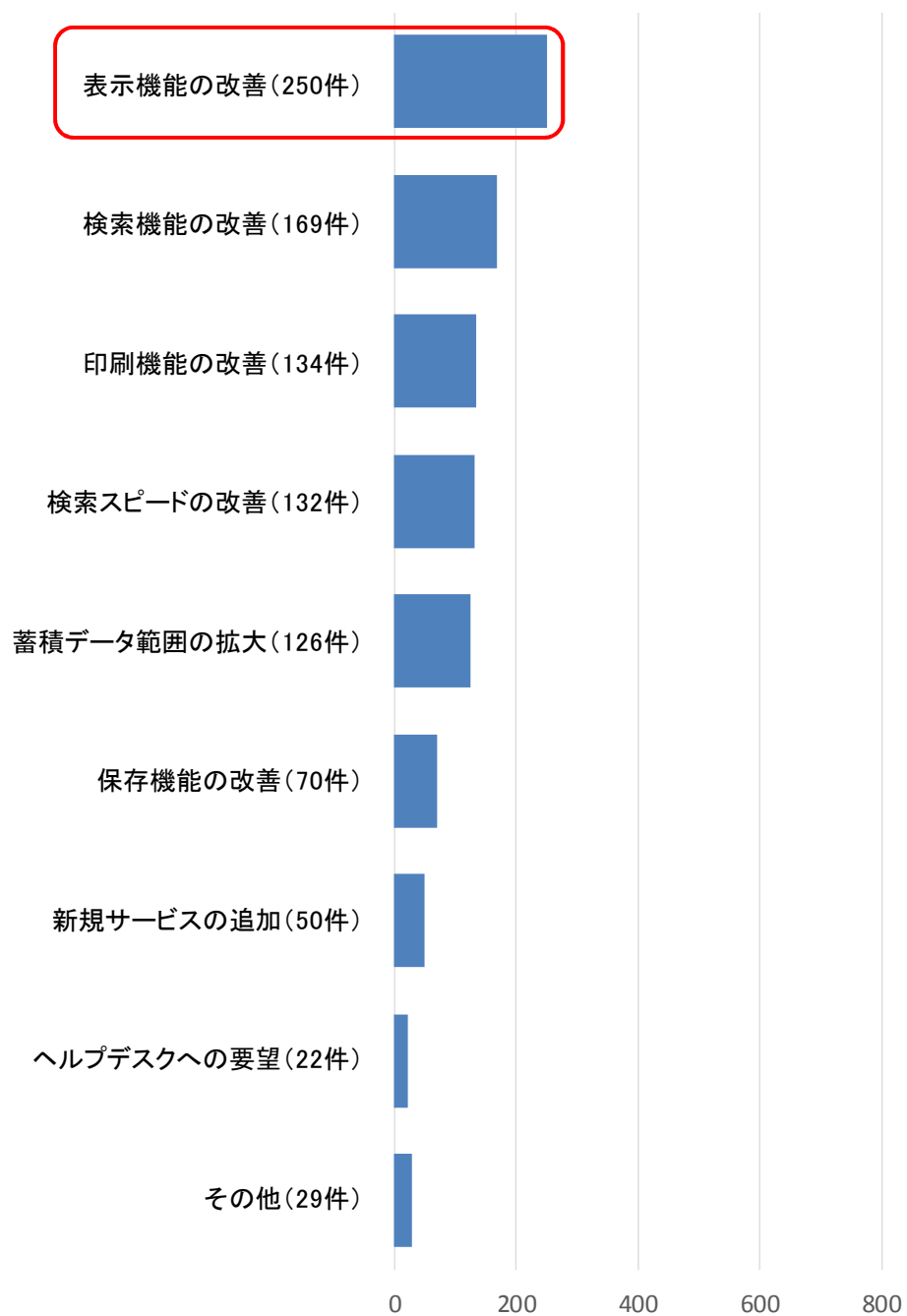
使い勝手については、「満足」と「不満」の割合がともに 40%前後である。





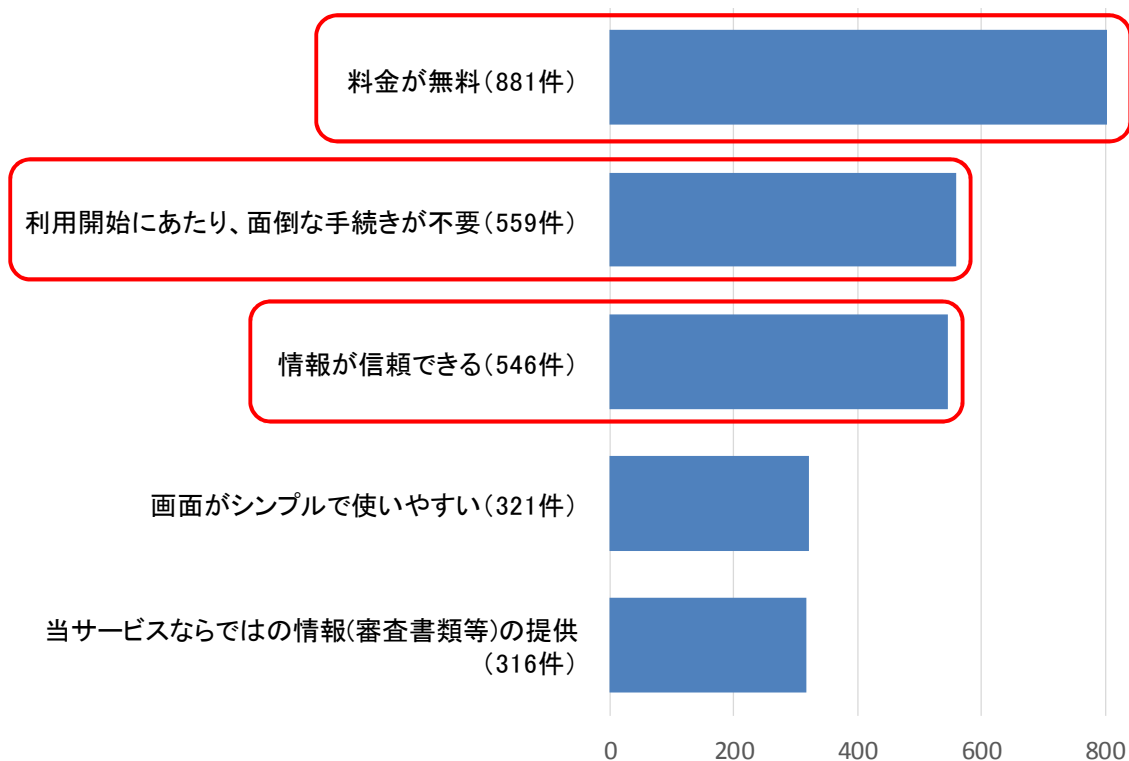
⑩ サービスの向上（複数回答可）

「表示機能の改善」を望む回答が最も多い。



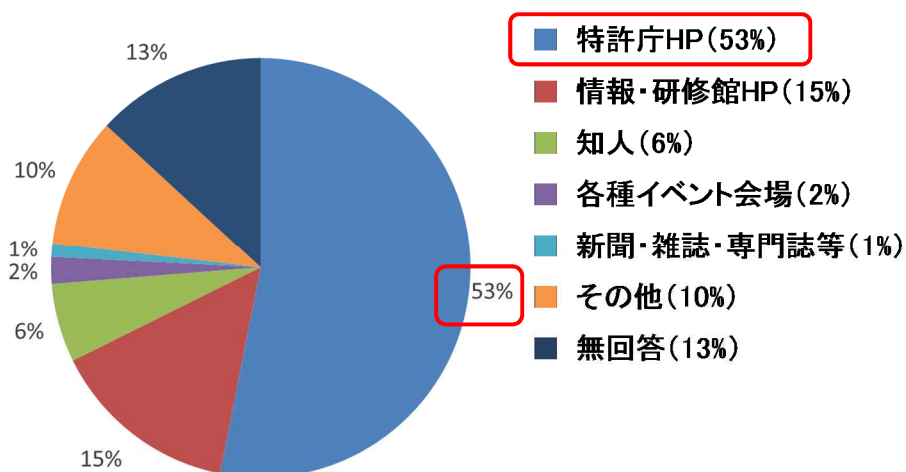
⑪ サービスを利用する理由（複数回答可）

「料金が無料」だからという回答が最も多く、次いで「利用開始にあたり、面倒な手続きが不要」、「情報が信頼できる」といった回答が多い。



⑫ サービスを知った手段（n = 1,058）

「特許庁 HP」で J-PlatPat を知った割合が過半数を占めた。



（3. のアンケート結果は以上）

#### 4. まとめ

2. の利用者アンケートは、期間を限定し、工業所有権情報・研修館ホームページ上で記名式にて実施しました。

属性情報、利用頻度などの結果から、**J-PlatPat** ユーザーのうち、比較的利用頻度の高いヘビーユーザーであり **J-PlatPat** に対し積極的な意見を持っている方が本アンケートへ多くご回答いただいているように推測されます。

本アンケートより、ヘビーユーザーが「特許・実用新案テキスト検索」や「経過情報番号照会」を利用して、「出願及び審査請求の厳選化」や「手続きの効率化」といったメリットを得ることができた、という利用サービスと得られたメリットとの関係が見て取れました。

また、このようなユーザーは総じて IPDL より **J-PlatPat** を評価しており、追加してほしい機能として「審査書類情報の印刷機能」や「パテントファミリー外国案件の審査経過等の参照機能」を多く望んでいることが見て取れました。

3. のアンケートは、**J-PlatPat** 上で通年にわたり無記名式にて実施しました。

本アンケートは、全ての **J-PlatPat** ユーザーの目に触れるトップページからアクセスすることができ、また、属性情報、利用頻度などの結果から、**J-PlatPat** ユーザーの幅広い層の方が本アンケートへ回答いただいたと推測されます。

2. の（ヘビーユーザーが多いと推測される）アンケートに比べ、権利の簡易調査を利用目的に挙げている方が多い結果となり、また、**J-PlatPat** を利用する理由として、「料金が無料」とした回答が最も多く、次いで、「利用開始にあたり面倒な手続きが不要」「情報が信頼できる」といった回答が多い結果となりました。

総じて、簡単な権利調査を行うために、無料ですぐに始めることができる **J-PlatPat** を利用する、という利用目的とサービス選択の理由との関係が見て取れます。

(以上)